

掌中發句五百題
編三 全

70

1

2

3

4

5

6

7

8

9

80

1

2

若水	若水や凡千草乃釣瓶繩	風鈴軒
初日	短乃簀の寒氣をなく初日哉	左柳
花春	草外乃春まん二日そ花の喜	吼雲
初空	いづそや舩の喜もその貢もの	露言
小象	齒菜の染よんよ包尾の鯛の友	耕雪
子日	傘持を大根移ふ子の日哉	柴啖
小松引	乃ふとも小松負人牛乃夏	聽雪
若菜	圃のしり巾吸り乃菜摘	其角

七種	七種や唱哥ゆめさしはらうち	北枝
齋	帚枕着う川人時こそ春	山川
芹	十種を得る芹賣は戻り	小春
梅	梅の茎もの氣入らぬけき	越人
紅梅	紅梅乃暖て雪あき時山うね	風洗
柳	柳を鼓もうる歌もあ	其角
朧月	夕風は何吹あけを勝月	北枝
霞	むつらりと岨乃枯木も露なり	杉風

三三
臘夜 春月 雪解 殘雪 雪間 春雪 系遊 春雨

碎ききききぬ夜とねまきハ勝式 素
寐くるとハ旌島之りりまきの月 沾徳
雪汁や蛤ゆす 場忠すき 木白
船く船小雪小雪の跡りり 且藁
雪んくく小塔の雪間能雪下るも 乙州
あままてうくとまき春は雪 支考
系花の勃くや去るの古芒 乱系
も能もや庭の麴の子と運ふ 友五

陽炎 長閑 春日 永日 春日 春海 春草 若州

のけろや登能滞るる教能も 許六
人乃世也長果ある日の寺林 其角
舟橋も春日小めらむ水のあや 沾徳
永さ日也殘撞し能もまぬえ 卜枝
ぬりあくる獄の光やまきの舟糸 杉風
松糸や旭えんくひ 春の海 不卜
まきの舟やのりまきのまよかまきん 荒白
わのまや松小付る 蟻乃こら 此節

浦公英 土筆 落臺 薊 莖 菜花 菊植 杉菜

半んぼや紫ふくありぬ花盛
ぬらふあやの葉交りはなしくし
落の芽や葉を尋る一はつき
木爪薊旅してえくぞハなるぬ
炮塚の土さかり跡とすもれ草
塊よ茎かみ咲きま川菜屑り如
こころあもほまきこり控し菊植苗
維子まゝ一跡よまきり杉菜外

圃箔 文鱗 浪化 山店 所水 冬文 沾徳 田水

蕨 豊 麦青葉 鶯 雉子 鶉 玄鳥 雀子

熟綱の塩のうらけよ初こころひ
酒賢人豊殖雲と隠まじりや
草麦の葉や益なるふ鶉のそり
鶯や二弁五合か藪年貢
漉壺もひしけと維子結わら成
役船やひらり結あも潮々あり
乙多も所堂の去鞍あつらうそ
日乃新やあましく結うへの親有

全睡 一露 沾徳 曲翠 去来 史邦 其角 珍碩

數入	出代	温槃	彼岸	初午	几巾	歸雁	麦鶉
庭ふ心もや涉ふらあそまの海	出代や衣すむる 幸か独	夏あてききて母あつくりり温槃像	櫛咲むくくよ弥陀の彼岸うか	初午やあそまの乳母うそ月抄	市中や馬よりあひ 几巾	麦喰ひ雁とおまへと別式	かろき家やるふかくるまきうつ
琴風	許六	崩弾	支考	沾徳	涼菟	野水	波音

若緑	椿	鹿落角	獨活	焼野	河返	寒食	如月
わのこころ神の涙雲 初縁とれと	坐禅堂はくく 櫛咲よりり	角落そちうくや 落る麻乃友	露肉あくハ芽うとある幸維志ん	はゆくと焼野よとあき蕨うそ	脊戸中ハ河之うり 乃幸田螺壳	寒喰の日をりひくち 熟深飯が	幾さくまや大悪柳もむめ結系
来山	雪笠	迹之	岩水	由之	文艸	桐曲	野水

海棠

海棠やお八時うち出で堂乃前

史邦

木瓜

砂川や乃まゝて日 木瓜の花

猿維

木芽

骨葉のめくまゝも木芽か

凡兆

指木

泣きうと鬼のぬきも指木か

舟泉

接穂

山揺せらむつやうに接穂うま

猿維

余寒

僧正の谷成すおれハ余寒うま

阿童

蝶

枝木よあると又のうらる胡蝶か

衣吹

蜂

腕首又蜂の巣かぐる 仁王うた

松芳

蛙

ひたぐや蛙のすえる石のろく

月睡

田螺

湖と疇のあちうに田螺一啼

朱拙

墓

墓より 墓出まゝかひきこのお家

其角

蠶

青くさくさ大さか家の棚うひこ

波圭

苗代

苗代とんそ居る歳の鳥うま

支考

田打

田両そ奈雨の田とあ夕日か

全

畑打

畑うちや 側不為乃物かこり

路茨

白魚

白魚のとを馴くする 旋うま

木導

小鯨	流壺へ命うちあまき小鯨	嵐雪
初櫻	まつ桜やささ追くよ咲かや	利雪
茶摘	ちのくひや桑山くちり支奴連	正秀
弥生	不二は流ふて三月七日八日うね	風國
上巳	もりの目や解法ハ美人よ嫺る	嵐雪
雛	雛と抱くうき麻桃の咲りり	其流
潮干	三日舟や汐干ハもとの海不有	八橋
桃	藪新て馬の白くく飛乃花	孤屋

海苔	海苔房や等る魚の中よあり	野梅
海雲	きのふりふ海雲待しりるの様	抱月
桜	朝さくく美しきそてまはすや	雨等
花	花よ来て浮世の人の神でるを	去来
梨花	梨のふたふと蝶よ日か移り	重政
酴醾	山吹よ浮雲さ岨の崩の那	越人
岩榴	山名の尾とひ移りつりて	曲翠
春風	春うきやま多か中り水の音	水導

別霜 藤 春暮 行春

胡葱の結ひ露すまよ別
又六及志さつとそまを
赤猫のうらみくまりぬ毒の毒
いゝまを禁よあつたる糞夜

吐竜 為有 山店 荊口

夏之部

更衣 袷 綿貫 青簾 灌佛 花御堂 花摘

更衣 十日そ争くハ花さうり
日小や多て古袷袷も似合免
襷袢の目を弱白よ隈くまよ
その色よいつもわまじし青簾
灌佛や控子まかち寺の児
色く乃朝の帯也花御堂
洗まひともまきめて通る搔うた

野坡 湖水 丹芝 吟松 其角 乙由 賤水

短夜 葵祭 夏夜 子規 鳩鳩 卯花 牡丹 杜若

森のつゆ又飯多く秋をのめあき
神恵葵のうみくうの清くうか
多結秋結水と秤又掛より
杜宇水戸街道も秋舟之
かんこ多うひよ獨敷隣
卯の舞小芦毛の馬結秋ゆれ
月徳の露よわきし白牡丹
夏のうちたゆみあそび燕子急

冬松 几右 冬市 山店 陽和 許六 木導 冬始

罌粟 紫陽花 葵 燕尾州 百合 茨 骨蓬

あしはわよ之山とゆる山つき
朝露や流るきさそ落る立 葵
澤深と纏のふく及 沃辺う那
うのむひく百合と酒吞城まう那
ゆきくはへるの啼秋ハ花あはれ
船の多結水し短く菱の雪
河骨の一紫干揚るふくれう系

千那 所梅 非群 嵐策 拒雪 非群 雪芝 一露

藻花

もの花や多かり控るも一しり

文中

萍

浮葉や鬼あり川に

柴軍

瞿麦

よてし不慣鼻禪子や川あり

嵐策

夏菊

夕まや曇りのうらや菊を切

亀洞

筳

さるる小鳥溢る啼故

柳雨

豇豆

角豆飯妹の垣根にあまふり

亀洞

茄子

この小賢人五人三ツをい茄子

雪声

覆盆子

失ひく又たなと流しちふか

糸賢

麦

刈込し麦結句ひや宿乃内

利牛

桐花

神鳴の形こそ響し桐の花

史邦

棟

棟佩る月片とめうや芝着

嵐雪

橘

立葉や離る鴉ハさつりは

桃憐

青梅

青梅やおのり控る落るま

岩水

合歡

川流や糸む乃糸糸子巻の色

眞光

箏

竹子よ身を摺る猫のたをれ

許六

若竹

若竹や煙乃ゆる庫裏の窓

曲翠

夏月 亦此もとの菴よりし夏の月 莫陵

夏山 夏山や夏もさるも寺跡分 山店

夏野 啼くふふ虫の飛ぶ夏野分 任口

夏水立 月落る滝のむういや夏水立 陽和

雑復 緑毛龜跡遠より来る 皋月くふ 不知

木下園 口多志くん木下やま此朝りけ 几右

昼寐 滝ちりり岩と身より日の昼寝分 鶯舌

松奥 並りも先きり河船や初松奥 岩水

鯨 投網りぬるひ分たり砂のわや 近之

川狩 親も子もまよたまる秋川くふ 陽和

鹿子 秋ちりりやるや藤の子跡額つき 土芳

鹿茸 小男鹿や樂しく生る 笹巾の 雪芝

火車 草の紫や暮小獵男跡火の光 几右

螢 中も木をちりる嗅さよ水の音 正秀

夏虫 燈灯小何里あてたる夏虫 蝶伽

蝸牛 蝸牛石平 流るる音をりき 氷巻

蝙蝠

蝙蝠小日多て杉乃匂ひり香

小春

蟬

夏の蟬涼しき聲や暑き声

乙州

蚊

旅人や曉くの蚊乃川来

沾荷

蚊火

一筋の標にまゝふ蚊火のれ

工齋

蠅

獨寐や蠅を忌む縁に控ふ

来山

紙帳

思ふ小事帝帳に書と綴り危

野徑

端午

長刀乃又糸を通る端午うね

百里

菖蒲

際もあき向ひ近江のあや免りか

尚白

幟

左右さ小横雲にさる幟の那

百里

粽

む津うしや粽とく多も来門

言水

競馬

見るうち罪もさるぬ競馬

孤屋

入梅

梅雨晴て牛控はする堤うさ

延年

五月雨

世の人をせそる五月雨傘の下

虎角

五月雨

舞坂や雲此五月雨盲むま

舌角

田植

唄ひうて田うしの中此雨の聲

土芳

早乙女

老法をもあ乙女うさ法田ハ

景道

早苗

一をを子蛭の血ぬらふ子苗の那

弥子

秋雞

畑うるとや秋雞うと啼水鶏

雪芝

芦雀

引酌秋雀や夜を啼芦雀

言水

翡翠

川せき翡翠もとりて翡翠ありふ

嵐竹

羽拔鳥

追とりて枝と志をく羽拔とり

立明

練雲雀

舞疲の片う穿抜てし福り鸛

巴三

鶉

鶉敷と子鹿とを飼ふ鶉鶉

庵指

鶉飼

炬火もむすむすの鶉飼

越人

氷室

六月に蜜柑をせり氷室守

言水

土用干

ありうと乾時代よりあや土用干

杉風

暑

た、暑くして籬へまきハ髪のお

水節

雲峯

雲の峯より流るる水の標の前

半残

水月

水月を踏破るへまき大井川

涼菟

涼

涼くさやまの鈴のほの砂

句空

清水

清水道のまき里付たる清水

徐寅

風薫

風薫るとに風薫るまき

翻る

心太

夢の本よ藤の葉よりとるらん
舌角

簞

漣や近江表を多うむく
全

扇

善待や分地扇乃 風あさり
良昌

團

かひく日を襟よりあさる夢
鬼演

蓮

蓮の急を心とる所の庭邊
苔蘇

荷葉

蓮籠のせき記中みもうき
朋水

旋花

堀り祿の名を昼顔の葉より
道下

壺盧

ゆふ顔よあるく 結雨他を
我峯

帷子

かど動くの日結露を記戸はう
万牛

夏衣

縮く何ふ袖くん夏あろも
含棘

汗拭

南乙ふ志くくと丁ぬ行 拭
山店

祇園會

杉の葉も青くお月結露旅
其角

祭

尻衣よかたかも帯く 糸
時吟

瓜

瓜守や桂結露をく とき
舌角

御被

鮫も蠅もきれつ 流せと川
全

秋之部

立秋

秋をいへばや響か樹毛のさし

浪化

初秋

初秋や帷子おし小かゝる雨

毛鈍

七夕

七夕や梵唄の笛を吹

其角

銀河

銀界に裾をたぐえぬ銀河

木因

鵲

かさねたや鵲の物と二ツ星

貞程

燈籠

美女羨男燈籠ふとく送ひか

去角

高燈籠

揚燈籠松よりまうへの物かゆし

遊竹

施餓鬼

唐音乃世の幾身は深夕のあ

百里

墓参

暮参ちるハ柳の急水牙

立縁

菟祭

菟まつり宿や 晩の境 老るるに

調柳

蓮飯

蓮の名をけし小漉し蓮の飯

支考

麻箸

かたあし麻木の箸も長男並

惟然

生身龜

生身玉をくさくさ杖はくせ

龜洞

盆月

踊るゑの支那のを破と盆月

李由

送火

おくりひに送火くぬ身ハ念佛か

龜翁

霧	露	暴	初嵐	秋風	相撲	踊	花火
帆柱のあゝぬや 旁のむらゝ山	朱鷺鳴りて 雲小霧わら 山吹	小原女や 柳ふらむらゝ 帯	日をおむ 髪りぬるひや 神嵐	秋風や ちりちり 生れの子もあゝ	裸身は 麻子ひひや 相撲とり	一巻くま 待人 遅さ 踊り 那	盲子 船 船 鼓く 美や ちり 那
北枝	挙白	園女	嵐巻	来山	許六	尚白	春富

稲妻	虫	蜻蛉	結裳	竈馬	蛸	蠅螂	松虫
いなづま 此 壁より 取はく 篠糸 糸	虫とも 子衣と 居らば 衣中 糸	富士や 笠まゝと 蜻蛉の 渡る 糸	この虫は 子種 の糸 結 紫山 子 糸	竈も や 敷より 飛つて 柿 棚	あゝ 春の 蛸や あり 神の 喪	かまこや ちり 裾拂ふ 子に まる ちり	遠く ちり ちり 松虫 住る ちり 浅茅 ちり 糸
路健	句空	横凡	鋤之	北枝	立祖	十丈	玄角

鈴虫

鈴虫や炬火先へ荷ふせせ

全

秋蠅

秋の蠅も温抱ハ志多し

千那

秋蟬

秋風や梢より鳴る蟬

百里

蝻

ひたち田より赤く鳴りたる蝻

風子

蟋蟀

灰汁桶の音を聴きし

凡兆

柳散

ちりちり散る柳

望一

桐一葉

風待し桐の一葉

望一

木槿

木槿乃圍の中

鮑石

雞頭

枯のりも鶏頭

万牛

女郎花

花をよみし

松吾

薺

あさ薺や名のひら

平交

萩

萩のや小萩

去来

野菊

山菊の葉

越人

芙蓉

百合はる芙蓉

風麦

蓮実飛

蓮の実

素堂

蓼花

木履はく

木節

葛

もやくとしそ志のまらや葛結花

山店

芦穂

芦の穂や振く衣より散る衣

路通

蘭

外らひさるふ糸の借ふらふの糸

如行

芒

急落戸よりさるまきし秋風

牧童

尾花

仰乃弱乃尾鬣吹とる尾毛

其角

番椒

鶏頭よ梅のをせりそ産かじし

央邦

名野

花野の牛より人そ懐きまら

志友

草芥

多花と物の子やまきし鄙の市

調之

芭蕉

芭蕉系やうちかへし月の新

乙州

蔦

蔦の紫や貝壳松ふ岩かの間

卧高

蕎麦花

狐火結とるあてくる持を結花

荒雀

西瓜

宵月よりあめの影うらる西瓜

一江

三日月

三日月や必ちりき星到る月

素堂

月

月の隣の榎木よりさる月

胡及

待宵

旅人をさる待宵のやうすが

羅人

名月

名月や見津あても居ぬ秋ては

湖春

既望

既望の空多し秋の夜

猿轡

后月

秋の月や本立も多し右の月

左角

助迎

助迎ひ遠坂よりハ初月形り

正秀

放生會

魚よ来るを望み見送り以放生云

松花堂

初潮

初潮や鳴戸の波に飛脚舟

凡兆

縮

縮む一舟近江の國に廣の船

浪化

早縮

世のうきやを積出す船のあり

呂風

晚縮

晚縮田の繩をる方や本通す

遠水

落穂

禪のの敷珠持する落不ふ

水導

紫字

山綫の紫山子傳りて笑ひり

重五

鳴子

此村の亞房際あり鳴子の船

古梵

引板

嘆乃引板をよかえり妻もう船

秋色

落水

高よひく入日さ飛べり水

古梵

秋作物

秋の田やそのりて得二俵

尚白

新酒

子稻酒や初よか多し竹の筒

虚谷

鴟

百舌多啼や入日さし小雲原

凡兆

鷓鴣

鷓鴣突然る聲りるは多形田也

肅山

鶉

投網は独ぬきき鶉の形

正秀

木啄

木啄の投を長く住居の那

曲翠

鵲

世幾鵲也墜去る縁る時

磨盤

鹿

鹿の音は人の聲る夕うき

一髮

菌

きけ物也黄茸も兎ハ蟻ハ虫

利合

松茸

松茸也むらじはき一室は星

素堂

初茸

初茸のうらと重腐日新の那

治蓬

柿

澁澁也濃柿きり以系る縁

其角

栗

日蝕結日よ喰入る也栗の虫

季由

團栗

えんり結落る飛り石佛

為有

椎

ひろく形ゆき風も椎の売

と

重九

吳菊も色よ時出は九日う系

桃隣

九日

人数よ白いを分てりふのきく

浪化

菊

飛る力やなくも菊圃

軒柳

擣衣

小多袖乃臈伴う川之苔の宿

横几

露時雨

霧の川静の寺のあり

遠水

秋雨

秋よ狩らひさき家とたたくる

挙白

紅葉

水底の紅葉きて居る被のふ

八木

秋夜

初秋と後秋争ふ秋とぬより

来山

長夜

一志さるひまもく形ぬおれなき

所水

夜寒

もすれの船は縁つら男秋空りか

文中

鴈

うらやうとりのま何とて津碕

鬼貫

秋暮

立出くうく後歩もや秋乃夕

嵐雪

行秋

ゆく秋を胡弓弦糸のうらや

乙州

秋雲

山くや一巻はくわあんの雲

涼菟

築

らるる築おし海も衣なり

心水

冬之部

初時雨

此頃の垣乃弦目や神くれ

湖春

時雨

海山の志くれり遠く岸のう

文中

爐閑

炉のきたる心ある附雨の系

山店

炉

火桶

火鉢

巨燵

炭

炭竈

埋火

楯

竈に火をいれずは是の鳥も居以

ましくはふとけくく相火桶

立居る中又焚湯のそを鉢に

宥うくまうと去嗅き火燵うふ

かこ炭も其木の葉より起りたり

すこくまうとふくして煙よむ法抄に

うつと火に去炭ふせくく自ひく邪

楯乃火は瓢の以後のかをとりり

山峯

園女

芦本

我峯

其角

不炊

神寂

探志

十月

神嘗

神送

神嘗

小春

達磨忌

十夜

御影講

涉まやまう十月は曆うり

神嘗月灯燵糸室の衣ちり

神おくり荒うる香紙去大根

神壇のめをまのり也源太史

時多気のあくそ一日小春の家

きる酒忌や時多るく宵は油楊

禪門の草足傳おろは十夜は

上人の教は箔おけり新講

来山

言水

洒堂

涼菟

路通

李由

許六

史邦

御取越

沙取あー肉系結あよ一坐箱

嵐竹

蛭子講

酒桶のあうの雪也堀子降

李由

神迎

神むくぬりち馬乃口

珍碩

吹草祭

湯火燃やたぬく難治結息流

李濃

冬至

書存結一寸伸く冬玉の那

仙雀

風

風震教子くまふ小家の家

残香

冬木立

心く僧とかく母く冬木立

卜千

冬日

武蔵野とくひと冬結日く

洗悪

冬月

豆ももあくもそ雪く冬月

我眉

冬籠

冬籠淡茶結売のたまる廻く

所水

冬構

葉藉く厚さ越や冬くま

程巴

寒椿

火燃くく幾日又なるぬ冬くま

木因

枯菊

菊売や冬たかく薪のあまところ

杉風

寒菊

寒菊や蔬さくもく勢新気喰

許六

枯芒

乱を流けてる行多く枯落

杉風

水仙

水仙や一板と安房結船たより

專吟

茶花	茶乃花よ	岩や	秋や	冬よ	春	色風
帰花	何の木と	仰ふ	も	あし	り	来山
茶山花	山茶花也	の	冬	春	柳帽子	柳土
枇杷	岳木よ	冬	木	練つ	つ	及松
冬牡丹	うき	あ	る	ち	花	牡丹
木葉	岩	の	い	い	か	其角
落葉	ち	の	花	あ	る	巴風
麦蔞	の	と	き	も	や	一井

干菜	の	干	菜	戦	く	秋	夜	友村
葱	雨	り	風	や	い	の	根	全
蕪	山	里	尔	の	思	う	毎	松芳
霜	もの	の	き	身	は	恥	う	全峰
霜夜	山	大	と	る	花	嗅	出	舌角
霜柱	谷	底	よ	鶉	の	啼	る	凍鬼
千鳥	荒	磯	や	走	と	訓	る	去来
水鳥	水	鳥	の	歩	と	緩	さ	湖風

野鴨

野鴨の聲 ぬりたる月夜

嵐雪

鴛鴦

鴛鴦のまじり人よ見せよ 池の鴛鴦

所水

磯鷗

筑波江や舟磯と羽くまつあり

友村

鷓鴣

鶯よ啼きよんせりりきそはあ

許六

鷹

鷹啼や志のひまのやの牙

遅雲

暖鳥

放ちやる鳥のめくれぬくめる

藤白

木兔

木兔の尻巾やいといと啼おは

策中

蒼鱗魚

蒼鱗魚の背あんかうもせまり危

山夕

空蛙

空蛙や空の音降る魚乃存

除風

蛎

うすくひも蛎も蛎のうすく

荻子

夜興

三日月よあまい月とらむ夜興は

拳白

河豚

あく子もや河豚もあくまそ流り

八橋

鱧

鱧舟や比良より北る音氣色

李白

生海胤

むく法もよこ生海胤や勅く朝法

露沾

鯨

鯨突く男と空の音ちのうら

万年

細代

あゝとむ音也 秋書は 細代也

林長

霖

霖やとくまふ泡ハ多敷

杜旭

寒

宵月のまろくと出る寒さ

卧高

寒声

寒き声や西条わるとは星月夜

乙孝

寒垢離

かんちりやかへ追う物ありし

取具

薬喰

傍や世と悟りしうの薬喰

芦本

納豆

納豆まるとこれや峯に雪ありし

文中

紙衣

室より多敷の紙衣と張る毛

舟行

頭巾

頭巾まると帛沙はるるは樹あり

其幄

衾

あつ衾甚敷酒もこころひり

千那

足袋

足のいそぎらつとき足袋にむせ

月下

初雪

初雪の麻の角巾もあまれのう

紅雪

雪

門中雪白と盥みすのころ

嵐雪

霰

とこれ雪もや胡飯の出るま

画好

雪吹

嵐賣の横丁はのけ雪吹くれ

湖春

霓

武士の聞あくらまん霓の如

好春

標

秋とあえて吾車もあまの嫁

長虹

橈

かんたきき出羽と越後ハ玉境

紅紫

氷柱

帆柱の氷柱見すは朝日とな

其角

凍

あえ死ぬ身の曉や櫓まゝに

全

神樂

御神樂やまゝと焚く湯去あま

去来

寒念佛

あはれあまの撞本神也かん念佛

支考

鉢扣

まゆき瓢箪見せよ 碎打

去来

臘八

臘八を叩とたきそ鉢扣

木導

御佛名

佛名の礼は獨りくふ接る家

野水

煤拂

家くやかこら穢くさ煤拂

祐圃

節季候

節季ゆやまゝと鶺鴒を追ある

惟然

師走

うらあふは小豆も市街は光る

正秀

餅搗

餅津さの籠さくゆりゆり

佳峯

年忘

年つまの箕垣落くゆり免

竹亭

曆賣

櫓くやまのそらくさ曆うり

嵐雪

豆糺

むくくき今を福年の豆

智月

年暮

年の暮を彼ま袴のゆく下り

杉風

衣配	衣配 <small>の</small> ぬ <small>の</small> 顔 <small>の</small> 廿日 <small>あり</small>	望翠
待春	待春 <small>や</small> 水 <small>の</small> 跡 <small>の</small> 塵 <small>の</small> 何 <small>く</small>	智月
行歳	ゆく <small>も</small> や木 <small>の</small> 実 <small>の</small> 実 <small>の</small> 実 <small>の</small> 碎 <small>の</small> 炭	沙明
大年	雀 <small>あり</small> ぬ日 <small>了</small> そ <small>多</small> きに大晦日	其角

江戸本石町十軒店 萬笈堂英平吉藏

其角發句集 二冊 嵐雪句集 二冊

蓼太句集 六冊

俳諧文集 蟹守大人輯 二冊
尚時言名の俳人の文抄輯

發句古今撰 同輯 附葛里連句集 三冊

俳諧新五百題 獲物大人輯 二冊

新五百題 後編

同輯

二冊

發句類聚

蓼松大人重校

二冊

發句類題

雪中菴火人輯

二冊

發句五百題

白雄房撰

二冊

俳諧恋の志

律雪庵北元大人輯

二冊

志の志とは是と季のよ恋の初るふよりして
恋の詞をとり付集む

能潜多焼灯

季の志

三冊

袖のゝ

季の志 懷中小本

一冊

俳諧四季名奇

懷中本 落葉集
季の大成あり

一冊

俳諧季の便覧

懷中一牧撰

萬葉用字格

春中上人撰
万葉集ののり

一冊

定家卿の歌

一冊

今古の形を

喜井八穂大人輯折本

一冊

尚古の形を

山本明徳大人輯折本

一冊

対照の形を

若波の大人輯折本

一冊

音便撮要

喜望上人輯 懐中本

一冊

子鳥の跡

中臣親満大人輯

一冊

此の書も色紙短尺の書とすともおも懸然
もらひに在人の書筆よりうつくしき

